

本願寺本堂昭和修復に際しての消息

宗祖親鸞聖人は、今から七百数十年前、浄土真宗を開かれ、私たちすべての者が、阿弥陀如来の本願によつて救われる道を明らかにしてくださいました。聖人の廟堂を起源とするわが本願寺は、聖人のみ教えを聞き、お念佛を喜ぶ同信同行の人たちの根本道場として、今日まで護持されてまいりました。

現在の本願寺本堂（阿弥陀堂）は、宝暦十年（一七六〇年）に再建され、より二百余年を経ており、屋根全般が老朽化し、そのままに放置できぬ状態になりましたので、去る昭和五十四年から、屋根瓦の全面葺替えと、これに伴う修復工事を行い、さらに防災設備をあわせ施して、ようやく本年秋には、すべての工事が完了する運びとなりました。

このような大事業が完遂できることとなりましたのは、ひとえに広大の仏徳によるものであり、また僧侶門信徒の方々の懇念と有志の方があたのご協讃、そして重要文化財への国庫等の補助によるものであり、有難く尊く思う次第であります。これによつて、私たちの祖先が建立し伝持してこられた聞法の道場を、子々孫々に伝えることができ、また文化財としても貴重な建造物を永く後世に遺すことができる事となりました。

阿弥陀如来の智慧と慈悲とを恵まれ、お念佛の喜びに生きる私たちは、物質文明に心を奪われて、人間性を喪失しつつある現代社会に、ならし、暖かい人間の心をとりもどすように努めなければなりません。そのためには、自らが生涯、聞法にいそしみ、宗門の基幹運動である門信徒会運動と、同朋運動を強力に推進することが肝要であります。それが本願他力をあおぎ、御恩報謝に生きる者の今日の姿であるといえます。

龍谷門主 爽 即 如

「ご消息」披露

七月二十三日（月）、福成寺において上掲の御消息披露が行なわれました。

「消息」と申しますのは、御門主様が私たちに出来られるお手紙のことです。上の手紙は、本願寺本堂昭和修復に寄せられた皆様のご懇意に対する御礼と、明年五月勤修の記念法要へのご案内のお手紙です。

当日ご門主様の代行として、兵庫教区教務所長がご

消息を披露されたのに対し、勝林寺からは坊守・門徒総代・仏社仏婦役員たちそろつて拝受致しました。

披露式後の総代会において、勝林寺としての対応を

次のように決めました。いずれあらためてお願い致しまがよろしくご了解くださいませ。

一、記念法要の懇意（一等 二千円・二等 千五百円・三等一千円）を秋彼岸に集納する。（あらためて代議員様を通じお願いに及びます）

二、出石組に三枚保管割当の「宝暦瓦」一枚を勝林寺でお受けする。

三、明年五月の記念法要に団体参拝団を組織する。

黒豆ジュースは
いかが

黒豆三合 水でサツと洗います。

水一升で黒豆三合を、三分間沸騰させ、ザルにあげ、あついうちに砂糖三百グラムを入れ、その中にレモン一個のしづりじる。それを冷蔵庫に冷やしておいて、好みの味にうすめてお召し上り下さい。

「信は莊嚴より生ず。」
本堂内陣、次の方々のご懇意により輝きを加えました。厚く御礼申します。
前卓塗替 宮嶋 幸男氏
上卓塗替 数森 三男氏
夏三尊戸帳 清水 儀一氏
上卓塗替 宮嶋 幸彦氏
下障子台塗替 斎藤 保氏
金多すま 平野孫三郎氏
上卓塗替 数森 弘道氏
上卓塗替 宮嶋 幸彦氏
前卓塗替 宮嶋 幸男氏
上卓塗替 数森 三男氏
夏三尊戸帳 清水 儀一氏
上卓塗替 宮嶋 幸彦氏
下障子台塗替 斎藤 保氏

勝林寺
子供研修会
「念佛の子を育てましょう」
勝林寺仏婦の二十年來の大切な事業です。役員会員のご協力をお願いします。
小学生を原則にします。
八月二十日（月）午後一時から
二十一日正午まで。
申込は十七日迄。
一人でも多く
ご参加ください。

◇七月二日寺に女児誕生。「由衣」と命名。◇後林住職は十六日カルボルニヤ大留学へ大阪空港を発ちました。◇偶然住職のイトコや勝林寺ご門徒出身の人が同じ大学にて親身なお世話をなつてゐるとかご縁の不思議さを今さら。◇住職は二週間の安居を無事終えることができました。くりかえし学び聞法させていただかねばと痛感。◇「平和記念日」が来ておおわてでした。◇今月の寺報作成に一日しかな

来る昭和六十年五月には、このご本堂の修復完成を記念する法要を勤修いたすことになります。この機会に、あいつどい如来の教法をお聞かせいただき、念佛の輪をひろげたいと願っております。有縁の方がたには、手をとりあつて、参拝されますよう期待いたします。

昭和五十九年一月十六日